

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20530516

研究課題名（和文）ソーシャルワーク理論の再検討—パラダイム・イデオロギー分析

研究課題名（英文）Review of Social Work Theory: Analysis of Paradigm /Ideology

研究代表者

田川 佳代子(沖田 佳代子) (TAGAWA KAYOKO)

愛知県立大学・教育福祉学部・准教授

研究者番号：10269095

研究成果の概要（和文）：イデオロギーの違いによるパラダイムの（構築要素の性質や形態の）比較対照から、イデオロギーとソーシャルワークとの関係について分析をすすめた。パラダイムの概念は、既存社会の支配的パラダイムを客観的に捉え返し、オルタナティブなソーシャルワークの再編を促す。ソーシャルワークにおけるイデオロギー的差異を認識するための理論的枠組みとその分析的記述を再検討した。それは、ポスト福祉国家の時代におけるソーシャルワークを記述し、説明し、予測し、統制・管理する理論の再組織化に組み入れられる。

研究成果の概要（英文）：The task is to reorganize social work theories by incorporating analytical description of state and ideology as well as social work and ideology that are lacking in knowledge currently taught in social work education through the review of preceding studies. This study seeks to explore theoretical basis or framework and its constituting elements in pursuit of alternative practice with a perspective to objectivize the existing social systems. By setting aside the existing social arrangement that is regarded as an axiom for a moment, it was assumed that the existing social arrangement could be changed with a different social paradigm. The perspective of paradigm made it possible to liberate social work embedded in the framework of existing social policy once.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	400,000	120,000	520,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：ソーシャルワーク，パラダイム，イデオロギー，理論，枠組み

1. 研究開始当初の背景

わが国では、1980年代以降今日に至るまで、戦後に形成された社会福祉の制度的枠組みを見直すための改革が繰り返し行われてきた。そのなかでもとりわけ、2000年前後の社会福祉基礎構造改革における抜本的な制度改革は、戦後の社会福祉の制度的枠組みを終焉に導くものといわれている。

社会福祉における一連の制度改革下で、ソーシャルワークはどのような性格、どのような形態のものとして形成され、またされていくとしているのだろうか。

現代の社会保障・社会福祉の政策展開に大きな影響を及ぼしているのが、新自由主義のイデオロギーと言われる(浅井春夫 2000)。新自由主義とは、社会の資源配分を市場原理に委ね、市場の自由競争のもとで資源の効率的配分を実現しようとする考え方である(二宮厚美 1999)。新自由主義の真骨頂は、「福祉国家への敵意」にあり、市場主導の経済成長こそが福祉の原点だと言われる(今田高俊 2004)。

第二次世界大戦後に進められた福祉国家の建設は、ケインズ経済学がめざした完全雇用政策と、ベバリッジ報告で提案された国民皆保険制度を柱に据えてきた。

しかしながら、新自由主義者は、国家の肥大化や財政危機を招いた要因をケインズ主義的福祉国家に求め、戦後の福祉国家の解体を、攻撃の標的に位置づけた(二宮厚美 1999)。

経済活動のグローバル化とともに・ボーダーレス化が進展すると、世界規模の産業構造の変化や、企業機能の世界的再配置が加速し、各国経済の相互依存関係は深化してきた。超国家的な、大競争時代において、国内の社会保障・社会福祉の財政的負担は、人口構造の少子高齢化とともに、経済発展の足枷とみなされてきた。

構造改革では、規制緩和による高コスト構造の是正、新事業・新産業の育成を図ることが改革課題とされる。運輸、通信、金融、エネルギー、流通等の非製造業ばかりでなく、医療、福祉、教育、生活・文化等の分野における公共サービスの市場化も、改革の視野に含まれた(通商産業省編 1995)。

社会福祉基礎構造改革は、経済社会の構造改革、そして社会保障の構造改革に組み込まれ、その一環として展開されてきたと言われる(横山寿一 2003)。

わが国の社会福祉の基本的な仕組みであった措置制度は、高コスト構造の主要因とみなされ、解体された。かわりに契約方式が導入されて以来、10年が経過する。介護保険は、高コスト構造の是正、新規産業の育成を柱とする構造改革の一環として具体化されてきた。

市場化や民営化により、経済合理主義的な経営や、効率至上主義の労働形態が優勢になるならば、ヒューマニズムの理念、自由や福祉が損なわれやすい人々の尊厳や、介護や福祉に及ぼされる負の影響は少なくないと考える。

ソーシャルワークは、個々人の抱える私的諸問題(private troubles)を、制度的脈絡に位置づけ、社会的諸問題(social problems)として捉え返し、問題を抱える個々人が地域のなかで孤立している状態から、人々とのつながりを得て問題解決に協働して取り組むことができるようになることを支援する実践をその本質としてきた。

社会福祉の市場化・民営化が進むなかで、国家とソーシャルワークとの諸関係を改めて問い、ソーシャルワークが行われる社会的脈絡の分析とともに、ソーシャルワークの概念的枠組みと、ソーシャルワークを下支えする理論の再検討を行うことが課題とされた。

2. 研究の目的

本研究における問題意識は、ソーシャルワークが、現在の私たちの社会で噴出する深刻な社会的諸問題に対し、適切な分析や説明を示していないこと、またその発生の因果関係や原因を解明し、その解決や解消に効果的な処方箋や対策を与え、人々のニーズに応えて結果を出すことが十分にできていないと考えるところから発したものである。

ソーシャルワークが現在の危機や問題を適切に扱えないでいる理由としては、ソーシャルワーク教育で伝えられる知識や、その理論的枠組みに問題が横たわっていると考えられる。このような見解は、伝統的なソーシャルワークの覇権に挑むラディカルあるいはプログレッシブ・ソーシャルワークとして知られる視座(Mullaly, 1997)や、クリティカル・アプローチの議論(Ife, 1997)において見出すことができる。

Mishra(1990)の指摘に従い、本研究では、福祉国家の危機やそれに付随するソーシャルワークの危機、その理論や戦略を検討し、その問題を説明する解釈の仕方は、イデオロギーや集団の利害によって定義される主観的現象であると捉えた。

これらの先行研究を振り返り再検討することによって、従来のソーシャルワーク教育で伝えられる知識に不足している、国家とイデオロギー、ソーシャルワークとイデオロギーの諸関係を調べ、それらの分析とソーシャルワーク理論の再組織化を試みようとした。

3. 研究の方法

本研究は、福祉国家が危機に直面するなかで、ソーシャルワークがどのようなものとして形成されてきたのか、そしてされていこうとしているのかを、調べようとするものである。

ソーシャルワーク実践が行われる社会的脈絡を客観的に対象化し分析可能にするために、パラダイムの概念を用い、社会的脈絡に支配的なイデオロギーを批判的に分析するところから始めた。

パラダイムの概念は、イデオロギーの違いによるソーシャルワークの特性や形態、ソーシャルワークが行われる社会的・経済的・政治的脈絡を理解するのに用いられた。また、既存の社会的秩序を自明視するのではなく、むしろ、別のものに変えうる視点を与えた。

現代の支配的なイデオロギーは、ソーシャルワークが伝統的に傾倒してきた共感や社会正義、社会連帯などの価値を減じ、損なうものであるといわれる。ソーシャルワーカーが専心する価値とソーシャルワーカーが働く環境との間には、反駁や矛盾が横たわる。ソーシャルワークが現在行っていることと、すべきことは何か。反駁・競合する価値はどう扱われているか、また扱われるべきかなどを、検討課題とした。

これまでソーシャルワークを構成してきた理論的枠組みを批判的に振り返り、現代の資本主義社会で生み出される社会的諸問題の解決・解消に寄与しうるソーシャルワークの理論的枠組みとはどのようなものか、そのような議論が行われた先行研究を調査し、内容を再検討することにより、本研究課題を遂行しようとした。

4. 研究成果

平成20年度の研究成果：

- (1) ソーシャルワーク教育で伝えられる知識に対する批判的見解を調べ、考察した。
- (2) 国家とイデオロギー、ソーシャルワークとイデオロギーの関係を論じた先行研究について調べた。
- (3) イデオロギー分析を、ソーシャルワーク理論に組み入れ、ソーシャルワーク理論を再編しようとする先行研究について調べた。

(4)パラダイムの認識的視座から、現代社会のイデオロギー、ソーシャルワーク専門職が準拠するイデオロギー、そして国家や社会が準拠するイデオロギーについて調べた。

(5)Mullaly(1997)を参照し、異なるパラダイム(新保守主義, 自由主義, 社会民主主義, マルクス主義)のイデオロギーから発する、諸価値、社会的・経済的・政治的諸信念、社会的諸問題の捉え方、福祉国家のあるべき理想の姿、そこで展開されるソーシャルワークの性格と形態について調べた。

(6)異なる社会的パラダイムを比較分析することから、ソーシャルワークの目的に適う社会的パラダイムとは何かについて考えた。ソーシャルワーク実践が行われる社会的脈絡とその理論的枠組みについて調べた。

Mullaly, Bob(1997) *Structural Social Work, Ideology, Theory, and Practice*, Second Edition, Oxford.

平成 21 年度の研究成果:

カナダで展開されている、オルタナティブなソーシャルワークの 1 つとして知られる Structural Social Work について検討した。

Structural Social Work は、社会構造から生ずる抑圧と、抑圧からの解放を焦点とするソーシャルワーク実践のアプローチとして捉えられる。

Structural Social Work をカリキュラムの柱に据えた、Carlton University の School of Social Work を訪ね、大学院授業や教授陣から多くの助言や意見を得た。

平成 22 年度の研究成果:

グローバル化社会で、人々が共に直面する社会的諸問題として、経済低迷下の失業、賃金収入の減少・喪失、住居の喪

失、地域社会や家族の崩壊、児童・高齢者・障害者など社会的弱者への虐待やネグレクトの増加等がある。

現代の資本主義社会の構造がもたらす歪みの犠牲となっている人々の問題について、ソーシャルワークはどうアプローチしているのか、また、すべきなのか。それは、ソーシャルワークの目的が何であるかを改めて問うことを根本に据えて、ソーシャルワークの理論を再編することを求める。

Lundy, C. (2004)の議論を参考に、ソーシャルワークの概念的枠組みにあるイデオロギーの差異について調べた。準拠する理論やイデオロギーの違いにより、ソーシャルワークの目的や方法、問題の定義や実践アプローチがどう異なるかを調べた。

既存の社会を括弧にくくり、異なる社会的パラダイムに変更可能なものと捉えるパラダイムの視点は、既存社会からいったんソーシャルワークを解放する。

パラダイムの視座から、異なるイデオロギーを比較することで、既存社会の支配的パラダイムを客観的に捉え返し、そこから、望ましい社会の在り方、めざすべき社会のビジョンを問うことができる。そのような認識的視座を、ソーシャルワークに組み入れて理論的再編を行う作業は、ソーシャルワークが現在の危機を克服してその後も存続していくためには不可避である。

Lundy, Colleen (2004) *Social Work and Social Justice: A Structural Approach to Practice*, broadview.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 田川佳代子「ソーシャルワーク理論とイデオロギーの枠組み： ミクロとマクロの二又構造を橋渡しするアプローチ」『社会福祉研究』愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科第 12 巻 2011 年 7 月予定, 査読無.
- ② 田川佳代子「構造的ソーシャルワーク理論形成初期の研究」『愛知県立大学教育福祉学部論集』58, 2009, 39-44, 査読無.
- ③ 田川佳代子「イデオロギー分析とソーシャルワーク理論の再編」『社会福祉学』Vol. 49-4. No. 88, 2009, 3-13, 査読無.

[その他]

ホームページ等

URL: Kayokotagawa.jimdo.com

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田川 佳代子(沖田 佳代子)

(TAGAWA KAYOKO)

愛知県立大学・教育福祉学部・准教授

研究者番号： 10269095